

五泉市小学校教育研究会 図画工作部活動報告

報告 五泉東小 田中 智子

1 活動のねらい

「個性的な表現を生み出す手立てについて研修を深める」ことを目指し、実技講習や作品鑑賞、研究授業に取り組んだ。

2 活動内容

(1) 実技講習 樹脂粘土を活用した作品作り（6月）

講師 (株)クラフテリオ 江上 保子様

新しい教科書(1, 3, 5年)に粘土を活用した題材が多く取り入れられている。そこで、講師の先生から素材としての樹脂粘土の扱い方や、効果的な活用法を教えてください、低学年から高学年を対象にした色々な作品や実技を紹介していただいた。

ア 粘土体操

制作の前に、軽量樹脂粘土を引っ張ったり丸めたりして、感触に親しむ活動を取り入れる。この「のばす、こねる」活動は、児童の意識を作業に集中させるばかりでなく、粘土の成分を均一にして、心材の定着率が向上する効果もある。

イ カラー粘土

児童の必要に応じたカラー粘土も容易に作ることができ、特徴を生かして、粘土を絵画のように構成させることができる。また、色々な物に接着しやすい利点を生かし、板に彩色した粘土を直接貼り付けて、レリーフにするなど、子どもの発想を生かした作品作りができる。また、色の濃淡を生かした実物に似た作品も容易に作ることができ、児童の表現の幅を広げられる。

多様な作品作りを実際に行いながら、丁寧に教えていただいた。すぐに取り組める題材もあり大変参考になった。



(2) 新津美術館作品鑑賞（9月）

講師 新津美術館 高橋学芸員様

「絵本の世界へ旅しよう」 絵本原画展Ⅲの鑑賞

今回の展覧会では、海外作家6人、国内作家5人のそれぞれの個性的な絵本原画約200点が展示されていた。

年代別に近代絵本に始まり、今活躍している作家の作品まで展示されていた。印刷技術の向上に合わせて、色の数も増え、画面構成も複雑になっていく過程や、作家の個性が生かれた表現の数々を目の当たりにすることができた。中には、国語の教科書で紹介されているレオ＝

レオニの作品や世界で6点しか発見されていないサン＝テグジュペリ自筆の『星の王子様』の原画より、日本で発見された貴重な1枚「実業家」が初版本と合わせて展示されていた。

今回の展示作品は絵本ならではの色彩表現が駆使されていて、子どもにたちが共感をし、想像力をかき立てられる作品が多々あった。今後の指導に大いに役立つものであった。



(3) 研究授業（9月）

ア 題材名 「農場見学の絵をかこう」～かんじたこと、おもったこと～（1年生）

イ 題材のねらい

- ・体験したことから、表したい内容を見つける。【関心】
- ・体験したことを思い出し、それに合った形や色などについて考える。【発想】
- ・表したいことがよくわかるように、形や色をくふうしてる。【技能】
- ・表した絵を友達と見せ合い、その時に感じたことや思ったことを伝え合う。【観賞】

ウ 授業者 若木 文子教諭（五泉南小学校）

エ 授業の概要

本題材は生活科で農場見学に行き、その体験の中から動物とのかかわりを想起して、自分の表したいことを形や色を工夫しながら絵に表し子どもたちの発想力を伸ばすことをめざした。

本時では、農場見学でしたこと、見たこと、感じたことを全員で振り返り、表したい場面を一人一人が見つけて下絵を描く活動を行った。実



際に触れあった動物の様子を明確にするため、見学前の動物についての話し合いを取り上げ、動物についての気づきをはっきりさせた。また、動物の特徴的な部分の写真を提示し



て、視覚的にイメージできるようにした。これによって、表したい動物の様子がはっきりとして、友だちと絵を見合う時にはそれぞれの描きたい場面について、話し合ったり、意見を交換する姿も見られた。

次時に大きな画用紙に自信を持って描けるように本時では、別紙に下絵を描くように計画していた。協議の中で、低学年では、持っている発想力やイメージを大切に、一気に大きな画用紙に描かせる方が、伸び伸びとした表現に繋がるのではないかという意見が多く出された。子どもたちの発達段階に合わせて、場面構成の手立てを考えて行くことが大切であることを改めて感じた。図工の学習は子どもが楽しく取り組むことが大切と考える授業者の視点が活かされた題材であった。

3 成果と課題

実技講習では、軽量樹脂粘土の活用の多様さを教えていただいた。図工の技法を直接指導してもらった場も少ないので、時間が足りないと感じるほど有意義な講習であった。すぐに授業に取り入れ、児童の作品作りに大いに役立ったとの報告があった。

美術館の鑑賞研修では、専門的な立場の学芸員から直接作品について分かりやすく様々なお話を伺うことができる。毎回得ることの多い研修となっている。

子どもの思いを大切に作品作りでは、思いと描く技能が結びつかなくなったり、描きたい物を小さく表現してしまいがちである。今後も発達段階に応じて、伸び伸びとした表現ができる手立ての工夫を考えた授業を構成していくようにしていきたい。